



建学の精神

東京キリスト教学園は、「福音主義」「超教派」「世界宣教」「実践的神学教育」の四つの柱を建学の精神とする。

「福音主義」

聖書を誤りのない神のことばと信じ、かつ信仰と生活の唯一の規範とする福音主義に立って、正統的な神学に基づけられた教職者および奉仕者を育成する。

「超教派」

超教派の神学教育に実績をもつ東京キリスト教学園にあって、教派をこえて日本の内外の諸教会と社会に奉仕し、その発展に寄与できる人材を育成する。

「世界宣教」

宣教の主イエス・キリストの大宣教命令に応じて、世界各国とりわけアジア諸国に、キリストのからだである教会を建て上げる働き人として、宣教師や奉仕者を送り出す。

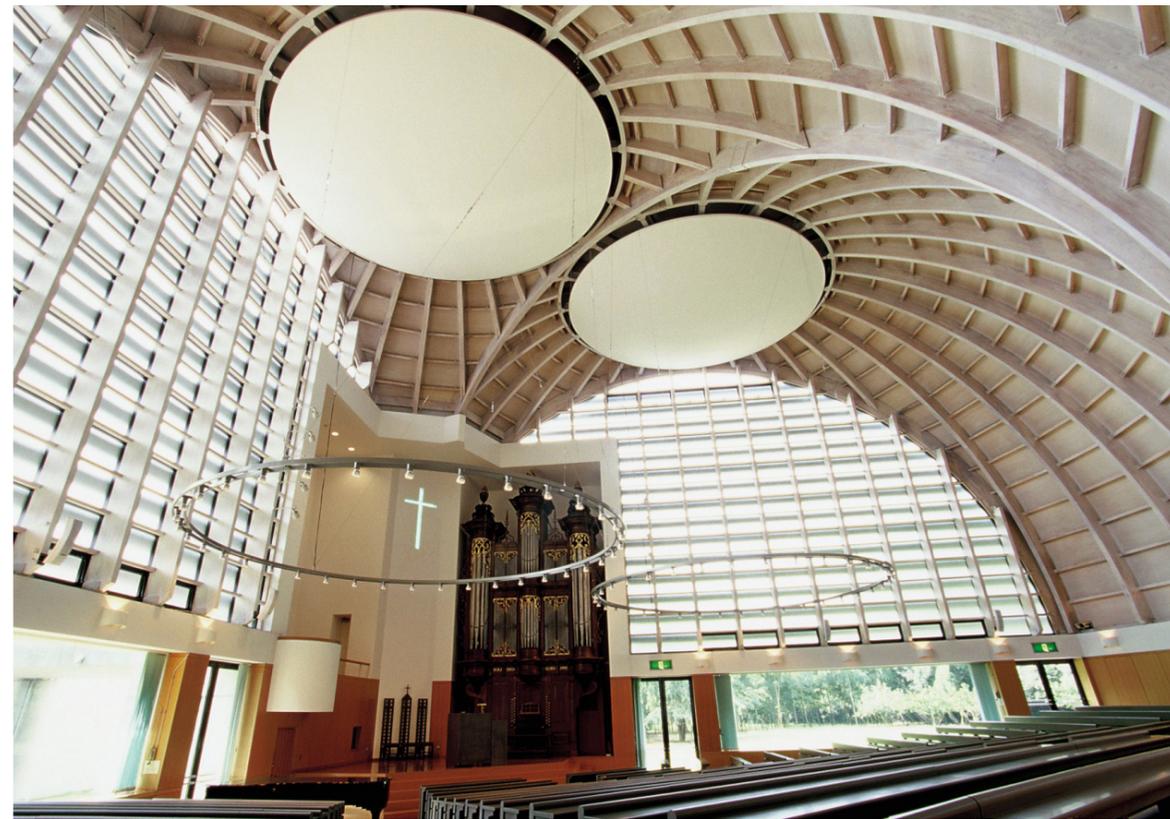
「実践的神学教育」

福音主義諸教会や諸団体の期待と要望に応えるために、実践的神学を深め、教会と社会に仕える姿勢、行動力や指導力を養い、福音を肌で感じさせる人材を育成する。

学校法人 東京キリスト教学園

〒270-1347 千葉県印西市内野3-301-5-1

TEL : 0476-46-1131 FAX : 0476-46-1405



創立

東京キリスト教学園は、1990年(平成2)に念願の大学を創立しました。大学としての歴史は浅いものの、母体となっている三つの神学校・聖書学校にはそれぞれの長い軌跡があります。1974年(昭和49)から協議が重ねられ、学校法人東京キリスト教学園のもとに1980年(昭和55)合同が実現しました。この合同は自発的に行なわれたもので、しばしば分裂による不幸な経験を経てきた日本の神学校、聖書学校の中で、稀有な例といえることができます。

中でも、多くの女性伝道者や牧師夫人を輩出してきた共立女子聖書学院は、合同によって98年の歴史に幕を引くにあたり、東京基督教大学の付属機関として設けられた共立基督教研究所によって、「共立」という名称と伝統、資産、人材の一部が継承されています。

今日、東京キリスト教学園創立期の功労者を思い浮かべるとき、多くの尽力者の中からドナルド・E・ホーク宣教師を挙げないわけにはいきません。ホークは、1950年(昭和25)『クリスチャン・ライフ誌』からの依頼によって、マッカーサー元帥が戦後1万人宣教師を日本に迎えるというアピールの結果を調査するために来日しました。自身が神学校教師であり宣教師でもあったホークは、日本の宣教事情の理解を深めて帰国しました。日本訪問を機会に、ホーク夫妻は再び宣教師となって、訪日することを決意。ゼ・エバンゼリカル・アライアンス・ミッション・日本同盟基督教団(Team)に加入しました。

当時、同盟基督教団とTEAMは、同盟聖書学院を本来の「福音主義の超教派」にしたいと望んでいました。ホークはその要請を受けて、神学教育と運営に新しい方策を立てました。1955年(昭和30)〈日本クリスチャン・カレッジ〉と改称した際に、ホークは校長兼理事長として就任しています。



東京基督教大学 校章・マーク
上に位置するXとPはキリストのシンボルで、それを囲む世界(地球)を表わす未完結のサークルを突き破って立ち上り、また破れたサークルを補い、繕うものです。

創立の背景と歴史

三つの学校の内で、最も長い歴史を持つのは〈共立女子聖書学院〉で、1881年(明治14)にアメリカ婦人一致伝道協会(WUMS: Woman's Union Missionary Society of America)から派遣された3人の女性宣教師ブライン、クロスビー、ピアソンによって創立された〈偕成伝道女学校〉がそのルーツです。3人の女性宣教師は、女子教育および混血児養育のためにアメリカン・ミッション・ホーム(亜米利加婦人教授所)を設立し、偕成伝道女学校、共立女子神学校と名称を変えながら、1957年(昭和32)共立女子聖書学院となりました。

二つ目の〈日本基督神学校〉は、1949年(昭和24)JPM(Japan Presbyterian Mission)の宣教師たちの協力で、〈東京基督神学校〉として東京都杉並区に創立されました。このころ、中国の共産化によって宣教師の国外追放が起り、JPMは日本での伝道を始めていたのです。設立当初は、横浜海岸教会の牧師 渡辺連平が校長、長谷川真が学監を務めました。運営上の理由で1951年(昭和26)からJPMのJ・M・Lヤング宣教師を中心とする教員たちにバトンタッチされます。その際、日本基督神学校と改称、改組されました。

三つ目の〈東京キリスト教短期大学〉は、1950年(昭和25)TEAMによる私塾 同盟聖書学院として、東京都世田谷区に創立されました。1955年(昭和30)専修学校として認可された折に、〈日本クリスチャン・カレッジ〉と改称。その後1966年(昭和41)学校法人となる機会に法人名を〈東京キリスト教学園〉とします。この名称は、奇しくも1949年(昭和24)東京都杉並区に創立されたころのものに戻る結果となりました。キャンパスを東京・国立に移転し、〈東京キリスト教短期大学〉を設立して神学科を設置しました。

このように三者三様の背景を持った三校が1980年(昭和55)一つになって、1984年(昭和59)にまとめられた「将来の展望」と題する10カ年計画では、移転してでも四年制大学の設置を実現すべきという旨の決定がなされました。1989年(平成元)晴れて千葉の現在地に新キャンパスを構え、1年間の準備期間を持った上で、1990年(平成2)念願の4年制大学である〈東京基督教大学〉(TCU)が開校されました。特色のある個性的な大学を目指す東京基督教大学は、福音主義に立つ神学部のみですが、1990年(平成2)開学当初から、伝道者となる神学科だけでなく国際キリスト教学科(国キ科)を併設して、社会で「地の塩・世の光」として働くクリスチャンワーカーを育ててきました。2008年度(平成20)より、国キ科の名称を変更して、国際キリスト教福祉学科として、これまでの国際キリスト教学専攻(国キ)と、新たに介護福祉士を育てるキリスト教福祉学専攻(福祉)を開設しました。

2010年度(平成22)より、三校同時のビジョンを実践し、東京基督神学校との統合、大学院設置の準備がスタートしました。神学校は2010年に学生募集を停止し、大学神学科3・4年次と大学院/専攻科2年(設置計画)の4年制の「教会教職課程」を開設したのです。伝道者のための神学科、国際的クリスチャン奉仕者などのための国キ、介護福祉士のための福祉、この三つが一つの神学部の中にあり、聖書を基礎にキリスト教世界観に立って、教会と社会に仕える奉仕者を育てています。



創立期の功労者 Donald E. Hoke
強いリーダーシップを発揮し、
クリスチャンだけの学校をつくる構想を提言しました。